

普及活動情勢報告（令和 2 年 6 月分）

中央西農業振興センター高知農業改良普及所

環境もコストもパッと見える化！？ ～IoP プロジェクトの推進～



機器を全てインターネットに繋げていきます

県が取り組みを進める IoP プロジェクトでは、生産現場の様々なデータをクラウドに自動収集し、生産者や JA、研究機関が活用できるシステムの構築を目指しています。今年度はその一環として、ハウス内環境や動力稼働状況等の現場データの収集体制を確立していきます。6 月上中旬に普及所と JA 高知県春野営農経済センターが、キュウリ生産者を対象に機器設置のための意向調査を行った結果、取り組みに前向きな生産者の声が聞かれました。

今後は現地実証を重ね、将来的に全ての生産者が利用できるサービスになるよう、取り組みを広げていきます。

ピーマンの出荷が始まりました ～露地ピーマン現地検討会～



距離を保ちながらも意見交換は活発に

6 月 4 日、JA 高知県春野特産部会における露地・雨よけピーマン生産者は場にて現地検討会が開催され、生産者 6 名が参加しました。

2 戸のは場を巡回し、JA より選別時の注意事項や今後の管理について説明がありました。普及所からはスワルスキーカブリダニを用いた場合の害虫防除効果について報告しました。新たに栽培を始めた生産者も加わり、土着天敵の有効性や仕立て方など、積極的な意見交換が行われました。

8 月から赤ピーマンに切り替わりますが、最後まで安定した栽培管理が行えるよう JA と連携し、巡回・現地検討会などで情報提供を行って行きます。

ニラの出荷が始まりました ～マル城園芸部ニラ部会目慣らし会～



マスクをし、距離を保ちながらの意見交換

6 月 9 日、城北出荷場にて、マル城園芸部ニラ部会の目慣らし会が開催され、生産者 5 名が参加しました。

出荷検査員より、出荷時の注意事項(収穫、荷造り)や予冷库管理について説明がありました。普及所からは、葉先枯れ症状や病害虫について説明しました。生産者からは、検査員には、異物混入、コロナの影響による価格や出荷量の動向、普及所には、新農薬情報を知らせて欲しいなど積極的な意見交換が行われました。

安定した栽培管理ができるように JA と連携し、情報提供を行っていきます。

高校生に産地の魅力発信 ～春野高校でガイダンス開催～



素朴な質問にも丁寧に答える

6月10日、春野高校で生徒さんを対象に、高知県農業や春野キュウリ産地の魅力について JA 高知県春野営農経済センターとともにガイダンスを行いました。参加した生徒4名は、「祖父が農業をやっているので、将来的に業種の一つとして考えている」、「スマート農業に興味があるので、参加した」等、目的をもって参加した生徒さんばかりで、質問も多かったです。

普及所は今後も引き続き関係機関と連携しながら、担い手確保の募集活動支援を行っていきます。

6次産業化への支援 ～HACCP 勉強会(なるクラブ)の開催～



売れ筋上位10品目で商品説明書作成中

6月15日 JA 高知市において、加工組織「なるクラブ」の HACCP 勉強会(20名参加)を開催し、高知県版 HACCP 第1ステージに取り組むための手順について学びました。普及所からは、HACCP チーム編成方法や製品説明書の記入例、注意事項等を説明しました。参加者からは「HACCP は、消費者の信頼を得る手段であり、自分たちの身を守るために必要なもの」等の声があり、継続して勉強会を開催することになりました。

今後も、関係機関とともに、県版 HACCP 認証取得や既存商品の改良による商品力向上について支援を行います。

ユズの産地に基盤整備の可能性は？ ～土佐山ユズ園の現地調査～



「ここで基盤整備をするなら…」とシミュレート

6月18日、高知市土佐山の菖蒲・都網の2地区において、高知市土佐山柚子生産組合の役員2名と、基盤整備課職員も含めた関係機関12名による、基盤整備事業導入に向けた現地調査を行いました。

基盤整備課職員に土佐山の地勢を理解して貰ったうえで、今後は現地事例を踏まえた勉強会等を開催していく事に決まりました。

普及所は引き続き、産地の意向に沿った基盤整備事業の導入に向け、取組を推進していきます。